

4-5

逆ディサービス「森の丘くらぶ」の取り組み

施設を離れて、家庭的な雰囲気の中でのサービスの実践を

意識改革

認知症ケア

特別養護老人ホーム 清風園

介護主任 吉田美香

生活部長 遠藤仙子

東京都町田市金井7丁目17番13号

生活相談課主任 石原浩司

TEL : 042-735-3000

E-mail seifu@san-ikukai.or.jp

FAX : 042-734-8933

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人賛育会が母体である清風園は、創立42周年を迎えた、都内でも2番目に古い施設です。現在は、110床の特養に3床のショートステイ、他にディサービス、グループホーム、訪問看護、訪問介護が併設された複合施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 施設全体での逆ディサービスの取り組みへの理解
- 逆ディサービスの認識と意義
- 具体的な取り組みの実施

〈具体的な取り組み〉

- 事業開発プロジェクトチームを設立し、施設全体での事業（方針）を決定
- 逆ディサービスに対する認識の統一の為の会議
- 他施設の実施状況のリサーチ
- 近隣に適した場所（一軒屋）があるか否かのリサーチと所有者との交渉
- 昨年度にデモンストレーションの実施と評価
- 活動方針の構想と策定。（月1回実施とプログラム）
- 日時と時間（3～4時間）の策定
- 参加される利用者の選出（6名前後）と同意
- 参加職員（毎回3～4名）の意識の統一
- 自己負担金についての算出と同意
- 参加利用者への感想と、次回に向けた要望のリサーチ
- 毎月実施後の、分析と評価、検討

〈活動の成果と評価〉

- 事業開発プロジェクトチームの中での逆ディサービスを実施したことにより、施設全体として取り組み、参加職員も多部署から選出しており、トータル的な事業としている。
- 個別ケアやグループケアを発展させた、家庭的なケアの有効性を職員間で把握できた。
- 参加利用者を固定化させたことで、逆ディサービスの有効性を認識できた。
- 施設を離れての活動は、利用者に自由な発想と活動的な表情を生み出している。
- 参加利用者は、料理を作り食したいとの要望が強く、これを取り入れることによって、家庭的な雰囲気を味わう事が出来、回想法にも繋がっている。
- 参加職員も普段の業務から離れて、ある意味息抜きが出来、職員のモチベーションアップにも繋がっている。
- 次回を楽しみにする利用者が、プログラム策定から関わっているので、利用者職員に一体感が生まれる。
- 逆ディサービスの成果により、新事業（ナイトディ）への足がかりとなっていく。

〈今後の課題〉

- 自己負担金の問題
- 介護職員の積極的な関わりが望まれるが、人員配置上限があることについて
- 長く継続していく為には